

■（第2期）いいね！いぬやま総合戦略（素案）に対する意見・提案と市の考え方について（パブリックコメントの結果について）

< 1 >

○いただいた意見・提案
（城下町） 店舗数は増え、観光客は増えているが受け皿を整えていない。（トイレやゴミ問題） 市外の住民や企業の店舗だと市の税収に結び付かない。地域貢献の意識が低い。
◆市の考え方
「戦略ある“観光まちづくり”をすすめます（33頁）」の中で、観光戦略の策定と推進と記載しておりますが、既に令和元年度から観光戦略の策定に着手しています（令和2年度完成予定）。 現在は学識経験者や各団体の長を委員とする附属機関での議論に加え、事業者、住民、まちづくり団体の方々など、観光に関わる方が集い、「地域の課題」や「これからの犬山観光のあるべき姿」を共に考え、共有し、前向きな改善の為の「実践」までを目指す「場」である観光まちづくり会議を開催しています。 いただいたご意見は、既に課題として挙がっておりますので、観光戦略（令和2年度完成予定）の策定及び推進とともに検討していくこととなります。

< 2 >

○いただいた意見・提案
（住んでもらうために） 地域住民の寛容さ・優しさも必要だが、そもそも若者はコミュニティの結び付きを求めている者が多く、歴史や伝統を重んじる地区は特に荷が重い。余程のメリット（※）がないと移住者は増えないと思うので、中の人を出さないような政策が必要だと思う。 ・雇用の拡大と働く環境の充実（でも再任用や高齢者の雇用が増えると若者は働きにくい。） ・地元愛を育てる（小・中学校での郷土学習の強化） ・市職員＝犬山市民（行政の当事者意識を高める） ・入院設備の整った信頼できる病院 ※ ①民間の結婚相談所への登録料助成金。 ・半額負担 ・成功して10年住むとお祝い金等...（子どもが小学生＝定住） ②安楽死制度の導入（国の決定後に素早く対応） 自分達の世代の未来を考えたとき、選択肢が増えることで老後の不安が軽減される

◆市の考え方

いただいたご意見のとおり、定住を促進するためには「中の人を出さない」こと、市民にふるさと犬山への愛着を高めてもらうことが大切だと認識しています。

また、32頁に記載されていますが、シティプロモーションにあたっては、住んでいる人が心豊かに暮らしているから、訪れた人も楽しくなる、誰もが「豊かさを実感できるまち」を目指しています。

具体的な施策のご提案につきましては、法律的、財政的な観点や、期待される効果等を検討した上で、参考にさせていただきます。

< 3 >

○いただいた意見・提案

LGBTが働きやすい職場づくりや交流のもてる場所の提供等、多様な価値観を受け入れる体制が必要なのではないか。

◆市の考え方

素案では、LGBTも含めたような価値観を受け入れる体制の整備は重要であると考え、目指す姿の一つに「誰ひとり取り残さない」「女性・高齢者・障害者・外国人などみんながいきいきとしている」を掲げるとともに（11、12頁）、「誰もがいきいきと暮らせるまちをつくります」を重点事業としています（21頁）。

< 4 >

○いただいた意見・提案

人生の最後を迎えるための在宅療養支援の充実

◆市の考え方

素案では、「地域の集いの場づくりを応援します」を重点事業の一つとして、高齢者が住み慣れた地元で、いつまでも安心して暮らすことができるよう「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」が切れ目なく一体的に提供できる仕組み（地域包括ケアシステム）を進めるものとしています（21頁）。

< 5 >

○いただいた意見・提案

テレワークやフレックス制など時間や場所の制約を受けにくい働き方の普及

◆市の考え方

素案では、「“暮らしたいまち”がある」の5年間のすすめかたにおいて、「若者世代、子育て世代の市内定住に向け、UIJターン、就業の支援に加え、子育てと仕事の両立のため、多様な子育て支援を展開（15頁）」するものとしています。

時間の制約を受けにくい働き方の普及については、その実現のための手段の一つだと考えますので、いただいたご意見は今後の施策検討の参考とさせていただきます。

< 6 >

○いただいた意見・提案
子育て世代に優先的に公営住宅を提供。
◆市の考え方
ご意見のとおり子育て世代の定住促進・移住促進のためには、子育て世代が暮らす住宅の供給が必要だと考えています。 素案の 19、20 頁にあるような空き家の活用、優良田園住宅制度の活用を通じて住む場所の確保に取り組みます。

< 7 >

○いただいた意見・提案
共働きの家庭が多くなり、子育てにかかる時間が減っているため、労働時間の削減等、働き方を考え、子育てに時間をかけれる仕組みはないだろうか。
◆市の考え方
いただいたご意見のとおり、子育てと仕事の両立の実現は、今後取り組むべき課題だと考えます。素案では、「暮らしたいまち」がある」の5年間のすすめかたにおいて、「子育てと仕事の両立のため、多様な子育て支援を展開。小児医療や教育環境の充実なども加えて、若者が安心して結婚し、子を産み、育てることができる社会の実現に挑戦（15 頁）」することとしています。

< 8 >

○いただいた意見・提案
現在は、共働きの家庭が主流となりつつあるため、子育てや家事も夫婦で分担している人が多い。そのため、女性職員だけでなく、男性職員の育児休暇取得率にも関心が高くなっている。素案には「子育てと女性の活躍を応援」とあるが、人によっては、「子育て」も「活躍」も女性が担わなければならないとの印象を受けかねない。子育てを支援するなら、女性の働き方だけでなく、男性職員の働き方にも目を向け、互いに働きながらも協力し合える労働環境が整っていることは小さな子供を持つ若い夫婦にとって住みやすさのひとつになっていると思う。
◆市の考え方
女性だけでなく男性も働きながら協力し合える環境の整備を促進することは重要であると認識しており、素案では、「暮らしたいまち」がある」の5年間のすすめかたにおいて、「若者世代、子育て世代の市内定住に向け、U I J ターン、就業の支援に加え、子育てと仕事の両立のため、多様な子育て支援を展開（15 頁）」することを掲げています。16 頁に記載されている「犬山市での子育てと女性の活躍を応援します」については、子育てで離職した女性の復職を促進し、子育て施策で支援することで、女性と男性が働きながら協力して子育てをする環境整備を目指すものです。

< 9 >

○いただいた意見・提案

城下町の観光兼務施設で働き、色々な地域の学校の遠足対応をしているが、その中でも犬山市内の小学校の生徒はとても素直で元気いっぱい、あいさつもちゃんとできていて素晴らしいので、このまま子供たちがのびのびと育っていけるまちでありつづけてほしい。おいしい給食も…。

◆市の考え方

これからも子どもたちが、のびのびと育っていけるまちであり続けるために、「犬山市での子育てと女性の活躍を応援します（16 頁）」、「犬山らしい教育をすすめます（24 頁）」などの重点事業を掲げています。

< 10 >

○いただいた意見・提案

様々な目標が設定されており、内容も充実しているので、実現化するように、市民も実行可能な具体的な計画を立てて頂けるといいように感じました。

◆市の考え方

素案をお示ししている「第2期いいね！いぬやま総合戦略」では、個々の事業についての計画（ロードマップ）は掲載しておりませんが、実施にあたっては具体的な計画に基づき、適切な進行管理のもと、取り組んでいきます。

< 11 >

○いただいた意見・提案

目標と、それを実現するための取り組みがとてもわかりやすく表現されていてよかったです。

- ・ P12 「人材の発掘・育成」 「…人材の探したり」 → 「…人材を…」
- ・ P12 「地方創生SDGs」とは？用語解説がなく、P17 までわからない。
- ・ P16 上から2行目「サポートは」 → 「サポートが」

アイコンが急に出てくるが説明は次のページでおかしくないか。

- ・ P26 下から2行目 「…農作物が」 → 「農作物を」
- ・ P29 協働プラザの説明を加えてもよいのでは。

◆市の考え方

ご指摘のとおり修正および追記させていただきます。

アイコンの説明につきましては、冊子の構成上やむをえないと判断しておりますが、印刷の段階でレイアウト変更が可能かを検討します。

< 1 2 >

○いただいた意見・提案
“暮らしたいまちに”にするために、観光で訪れる人とそこで生活している人が共存できる取り組みが必要。渋滞対策、駅前交差点、地下道への誘導・活用、改修等
◆市の考え方
「戦略ある“観光まちづくり”をすすめます（33 頁）」の中で、観光戦略の策定と推進と記載しておりますが、既に令和元年度から観光戦略の策定に着手しています（令和 2 年度完成予定）。 現在は学識経験者や各団体の長を委員とする附属機関での議論に加え、事業者、住民、まちづくり団体の方々など、観光に関わる方が集い、「地域の課題」や「これからの犬山観光のあるべき姿」を共に考え、共有し、前向きな改善の為の「実践」までを目指す「場」である観光まちづくり会議を開催しています。 いただいたご意見は、既に課題として挙がっておりますので、観光戦略（令和 2 年度完成予定）の策定及び推進とともに検討していくこととなります。

< 1 3 >

○いただいた意見・提案
地盤が堅固で、水害の心配が少ないという理由で、犬山に居を移して 40 年余。確かに、風水害は少なく風光明媚な土地ではありますが、暮らして行くには、とても不 便な土地だと感じています。 まず、店が少ないことが、その大きな原因です。 大型スーパーは、ヨシズヤ 1 軒のみ。スポーツ用品や、鞆、楽器類（ピアノ以外の）、 宝飾品、家具、寝具、大きな電器屋などの専門店は、ほぼ皆無に等しく、食料品を買 えるスーパーも極端に少ないです。 ちょっとした市には、どこにでもあるはずの、イオン、サイゼリヤ、ケンタッキー、 回転寿司、チェーンのうどん店なども全くありません。お隣の扶桑は、町なのに、全 てあります。 市民文化会館や南部公民館も、目ぼしい行事はなく、いつも閑散としていて、扶桑 町には、文化の面でも及びません。 そして、国宝を 2 つも持ち、犬山城、明治村、リトルワールド、モンキーパークな どの大型観光施設を沢山持ちながらホテルも少ないし、観光客が楽しめる飲食店や土 産物を買える場所が殆どないのも問題です。 確かに、犬山城からの城下町通りは、整備が行き届いてお店があふれ、見違えるよ うになりましたが、1 本脇道に入れば何にもありません。また、以前、観光客の方か ら、「駅前で昼食をとろうとしたけど、犬山って何にもないところだね～。あれでは

ダメだよ！」とあきれられたことがあります。せつかくの観光地なのだから駅ビルの中に犬山をはじめ近隣の市町村の土産物を買える店や、飲食店があれば良いのに…といつも思います。

なぜ、犬山はこんなにも店が少ないのでしょうか？

また、犬山城～遊園までの川沿いの景観はどこにも負けないくらい素晴らしいのに、川岸にはお店らしき物は何にもなく寂れた旅館があるのみで、楽しめる所がひとつもありません。これでは、せつかくホテルに泊まっても、楽しみは半減です。これだけの観光施設を持ちながら、それを全く生かし切れていないと思います。とても勿体無いことです。

市役所の職員が考えるのではなく、きちんとしたその道のプロを招いての大幅な開発計画が必要ではないかと思います。

最後に、

現在住んでいる長者町は、100世帯を超え、周囲には富士苑、緑ヶ丘、前原台などの大きな団地がいくつもあるのにスーパーはもとより、店らしき物は殆どなく、車が使えない高齢者には、大変不便です。

工場や倉庫群を誘致して法人税を…とのねらいがあるのかもしれませんが、市民が日々の生活にとっても不便を強いられていることもお考えください。

本町（城下町）通りだけを美しくして、TVで有名になっても市民は少しも潤いません。

◆市の考え方

市内に商店等が少ないこと、お住まいの地区にお店がなく、車が使えない高齢者には不便だということにつきましては、素案の18頁において「新たな商業立地を積極的に進めます」という重点事業を掲げ、商業集積ラインへの飲食店等の誘致や、買い物の不便さの解消に取り組むこととしております。また、同頁「住環境（インフラなど）を整えます」では、移動手段を持たない人のための「足」の確保について検討するとしています。

観光に関するご意見については、素案の33頁にある観光戦略について、令和元年度より策定に着手しています。いただいたご意見は、既に課題として挙がっておりますので、観光戦略（令和2年度完成予定）の策定及び推進とともに検討していくこととなります。

土産物につきましては、素案の25頁に「新たな地域ブランド開発を応援します」を掲げ、多くの名物や特産品が生まれ、磨かれるよう、様々な取り組みを支援していくこととしています。

○いただいた意見・提案

2060年61,000人を保持することが適切かどうかの検討は意見できませんが、インフラの次から次へと発生する老朽化と、少子高齢化に伴う福祉、の2つの予算増大は避けられません。

とあるAIが2050年の未来を予想した際に、2020～2030年の選択により2050年の未来が消滅都市となるのか持続可能都市となるのかが決まってくる結果をみました。総合戦略として、目指すところは人口減少を踏まえても同人数レベルの7万人なにかしを目標にすることでいかがでしょうか。楽観視ではなく、そうしなければどちらにせよ上記の予算を残る人口で負担しきれず破綻もしくは吸収合併的な動きになり、犬山市財政として脆弱化してしまうからです。

そのための戦略ですが、最大の問題は、“インバウンドによる観光収入がそこまで伸びていないこと”と、“ここからの定住への促進が進んでいないこと”と思います。若者の観点からすると、“山村部の自給自足の魅力”、“田舎に近い都市部へのアクセスの良い、少し歴史もある面白い場所”の2点が最大の長所です。この2点を伸ばせるように、特に山村部の経済的な自立（エネルギーの自給が最大効力を発揮します）、都市部のアクセス“道の駅と公共交通のアクセス”によるパーク&ライドを使った団子的なしくみを作ってほしいです。

◆市の考え方

現在の人口ビジョンでは2060年の人口を61,873人としていますが、それだけでは人口減少に伴って犬山市の財政は脆弱化してしまいます。そのため、現在の人口との差については、通勤・通学やなどによる昼間人口やインバウンドを含む観光、短期居住など広い意味での交流人口の拡大によって補うこととしています。（6頁）

“山村部の魅力”、“田舎に近い都市部へのアクセスの良い、少し歴史もある面白い場所”については、犬山市の長所だと考えておりますので、「自然や“農”が近くにある暮らし」など、犬山ならではの暮らし方の価値観を提案（15頁）」を掲げ、「里山に住む」仕組みづくりに挑戦します（20頁）」を重点施策としています。

道の駅への導入施設・機能については、必須とする機能・施設を含め、今後予定する道の駅整備・運営事業者の選定において、ニーズや収益性など幅広い視点から民間事業者による提案（民間活力の導入）を求める予定をしています。道の駅整備・運営事業者の選定において参考とさせていただきます。